よねだところどころ

第二十六号

ヨナダーが下米田・牧野の色々な見どころを紹介するよ

信友の遍照院と羽掛神社

ヘンショウイン・ハガケジンジャ

羽掛神社　信友の字羽掛前に鎮座する神社である。元村社で山の麓にあり、本殿は最近改修されてあたらしくなっている。羽掛の祭神　長白羽命（ながしらはのみこと）伊勢神宮に奉納する荒妙（あらたえ）を織った神麻続部（かんおみべ）の祖神とされ、白い衣類を白羽と呼んだのは長白羽神に由来するとされる。

この神社の由緒由来として、「当社の儀は、過年来米田庄十ヶ村にして信仰来る社に御座候えども、創建年月日不詳なり。然れども万治二年(千六百五十九)九月再建　米田十ヶ村と棟札に記載之有り候」とある。祭神は白い衣類に関係し、織物の神とされる。

羽掛神社の神宮寺とされるのが、裏手の丘陵地にある**遍照院**（へんしょういん）である。神仏習合の名残であるといわれるが、空海の開いた真言宗系寺院である。羽掛神社の裏手の坂を上がった場所にあり、お寺という雰囲気はない普通の建物である

注　神宮寺は、神仏習合における寺院にあたる　一般には寺が神社の神官を務める。平安期の創建と思われる。

寺の庭園には周辺に観音の石仏が池をぐるりと取り巻いている。美濃加茂市史によれば、これらは南北朝から室町期とされる宝篋印塔等とされている。寺院が丘陵の尾根の部分にあり、神社は沖積面との接点にある。一般には隣接することが多いが、この場合は、どちらかがより古いと考えられる。下米田地域では、両者とも古くから信仰の対象となっていたと考えられる。